

令和3年度第2回学校評議員会報告

- 1 日 時：令和4年2月17日（木）15：30～16：30
- 2 場 所：本校会議室
- 3 出席者：学校評議員3名、オブザーバー1名
本校職員5名（校長、副校長、事務長、総務主任、総務担当）
計9名
- 4 次 第：（1）開会
（2）校長挨拶
（3）学校概況説明
（4）スクール・ポリシーの策定について
（5）質疑・意見交換
（6）閉会

5 内 容：

【校長挨拶】

新型コロナウイルスの発生から丸2年が経過した現在も、オミクロン株の感染が蔓延する中、いまだ警戒は解けないが、生徒たちは感染対策をしながら学習や部活動等、目標に向かい成果を上げている。これまで行事を単純な中止とせず、見直しながら極力行うよう運営してきた。懸案の一つである入学生募集については、推薦志願者は0人である。一般選抜志望者はここまで男子9人、女子9人の計18名である。この会で、令和4年度のスクール・ポリシー、大野高校の教育の指針、方向性をお示しするので、忌憚のないご意見をお願いしたい。結びに、今後とも一人でも多くの中学生に入学していただけるよう、大野高校の魅力を磨き上げ、各方面に発信してまいりたいと思っているので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

【学校概況説明】副校長

今年度は新入生26名を迎え、生徒70名でスタートしたが、2名の進路変更により、現在は68名の在籍となっている。部活動や行事は高総体、高校野球が2年ぶりに行われ、平常に戻りつつある。卓球部シングルスで東北大会出場権を獲得した。行事は昨年同様、体育祭、収穫祭、文化祭を行った。修学旅行は中止となり、代替旅行の計画も延期となった。ナニヤドヤラ大会や久慈平荘との合同避難訓練も実施できなかった。高校の魅力化促進事業は1年生の総合的な探究の時間で「大野の未来を考えよう」と題したグループワークは取り組みを継続している。岩手県立大学社会福祉学部とみちのく大寿会の共同研究である「北岩手コミュニティ計画策定支援事業」に本校生徒も関わらせていただき、「大野福祉で街づくりプロジェクト」として町の広報などで取り上げていただいた。3年生の進路については、在籍27名中、就職12名は決定し、進学15名は短大、専門学校の13名が決定し、大学

2名が受験を控えた状態である。学校経営計画の達成状況については、学習指導の項目で、授業アンケートの向上が全教科90%以上という結果となった「学習内容が役に立つ実感」への評価が上がったのは、学習内容と日常生活との結びつきを意識した教科の工夫による成果である。家庭学習時間が目標に5分足りない結果となった。部活が忙しく、朝の登校後に課題を行う生徒もあり、家庭での学習の習慣化を促し結び付けたい。進路達成は大学進学の名を残すのみで、その他進学、就職者は決定している。次年度よりスタディサブリを導入する。生徒一人ひとりに対応した指導が可能になる。

生徒指導に関しては、自信をつけさせ寄り添う指導ができているという評価であった。

P T A総会の参加率向上は日程などで、参加していただけるような工夫は行ったが、コロナ禍であったため難しい結果となった。今後に向けたアイデアをこの会で募りたい。

学校生活の満足度は「入学してよかった」という回答が多かった。しかしながら志願者は20名を切っている。アピール方法の妙案を募りたい。

【スクール・ポリシーの策定について】副校長より説明・付属資料参照

【質疑・意見交換】

A 氏：スクール・ポリシーにある魅力化向上パートナーとはどういった人を指すのか。

副校長：学校によって異なるが、地域連携活動を進める上で係わっていただく方々、学校の活動を支えていただいている方を指す。学校が開かれたものとなるために地域、保護者の方々を含め、様々な方と繋がりながら生徒を育てていく姿勢が大事になってくる。

B 氏：入学希望者の数について ほぼ大野中学校の生徒だが、他地区の生徒はどれくらいになるか。

副校長：数名だが、他地区の希望者がいる。他校と比較しても地域密着型であるといえる。

C 氏：地域と密着した活動をされていることは、自分自身は理解しているが、周りの人はどれほど理解できているか。中学生などにも分かり、届く情報発信ができれば入学希望者も増えるのではないか。生徒数確保のために、大野高校の良さを分かってもらうための活動は何かないものか。地域の小中学校ではそういう活動がみられる。工芸の授業をおおのキャンパスで行っているのは知っているが、それ以外で何かできないか。

副校長：中学校との連携がコロナのため難しかった。部活動などで接点はあったが、大野中への派遣を考えていた先輩に学ぶ会などを実現したい。

C 氏：本の読み聞かせや、影絵や人形劇など、児童館で行えるようなものは、依頼があれば高校を会場として行える。生徒も興味持てばやってくれるのではないか。

副校長：総合文化部の生徒は創作活動を中心に行っているの、興味を持って参加してくれるよう顧問の先生と相談したい。

C 氏：地域活動のコーディネーターの方が案を出してくれたりする。地域の方と合同で行える手作りの作品制作のようなもので検討できればよい。

副校長：繋がりができるような活動はいろいろありそうなので、検討していきたい。

副校長：PTA総会の参加率向上のために何か妙案はないものか。

C 氏：吹奏楽部の演奏会など部活動のイベントを合わせてみてはどうか。授業参観や地元企業の方から講演していただくことがあると参加者の足が向くのではないか。

副校長 小中学校等にアピールする方法としてはどのようなものが考えられるか。インスタグラムなどSNSの活用も行ってはいる。

C 氏：おおのミライハナビの件があったが、SNSなどでは地元の方々にうまく伝達されていない印象だ。もう少し告知方法等を検討できないか。

副校長：毎月の学校通信などでも発信はしているが、あまり伝わっていないのかもしれない。町内放送なども考えたが、難しいようだ。

副校長：アンケート結果の中でこれを柱にしてほしいというものがあるか。

D 氏：勉強に対する喜びや興味を得られていないような印象がある。基礎基本で躓いている生徒に手厚く指導することと、スタディサプリの導入で、進学するための技術が伴う指導ができるのではないかと期待している。中学校にも結果がアピールとなると思われる。